

子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開
～豊かなかかわりと学びを大切にした体育学習～

I 研究概要

現代社会における少子化、ライフスタイル、メディア・インターネット環境等において児童の運動・健康における状況は大きく2極化している。そのような状況において、児童の「運動・健康」を担保するための体育学習の役割はますます大きくなっている。新学習指導要領では、体育学習で身に着けた「体育の見方・考え方」を他の教科領域、学校生活さらには、児童の日常生活に波及させ、児童の生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成に系統的につなげ、「生きる力」を育むことが述べられている。

今後、新学習指導要領移行の趣旨の基づき研究を進め、実践していくとともに、新元号2年の新学習指導要領完全実施に向け、評価についても情報収集を行っていく必要がある。新元号3年の東部小研統合までのあと3年で、本研究部としてどのような活動が行えるのか精選して取り組んでいく必要がある。

そこで、本年度は、まず、新学習指導要領の目標の理解を進めていきたい。目標における「体育の見方・考え方」として、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、運動やスポーツとの多様なかかわり方を小学校体育学習では児童に伝えていかなければならない。さらに「多様なかかわり方」として、従来の「する」だけではなく、「みる」「知る」「支える」についてもどのような学習形態が有効であるか考える必要がある。授業改善において、主体的・対話的で深い学びとはどのようなものなのかを研究実践を積み重ねていくことも大切である。

本年度の研究主題は、昨年度までのものと同じ、「子どもたちの主体的な活動をつくり、確かな力を培う学習の展開～豊かなかかわりと学びを大切にした体育学習～」であるが、新学習指導要領の趣旨に沿った実践及び研究を意識して積み重ねていくことが重要であると考えている。八頭郡小教研は、残り2年で東部小教研に統合となるが、残りの2年間における研究主題についても検討していきたい。

II 研究の視点

- ① 「学習内容を明確化した学習展開の工夫」の実践
- ② 「子ども同士の学び合いの充実」の実践
- ③ 【運動領域】【保健領域】における「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の内容にかかわる研究
- ④ 「体育の見方・考え方」「多様なかかわり方」の考え方の研究
- ⑤ 主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善についての研究

III 研究の実際

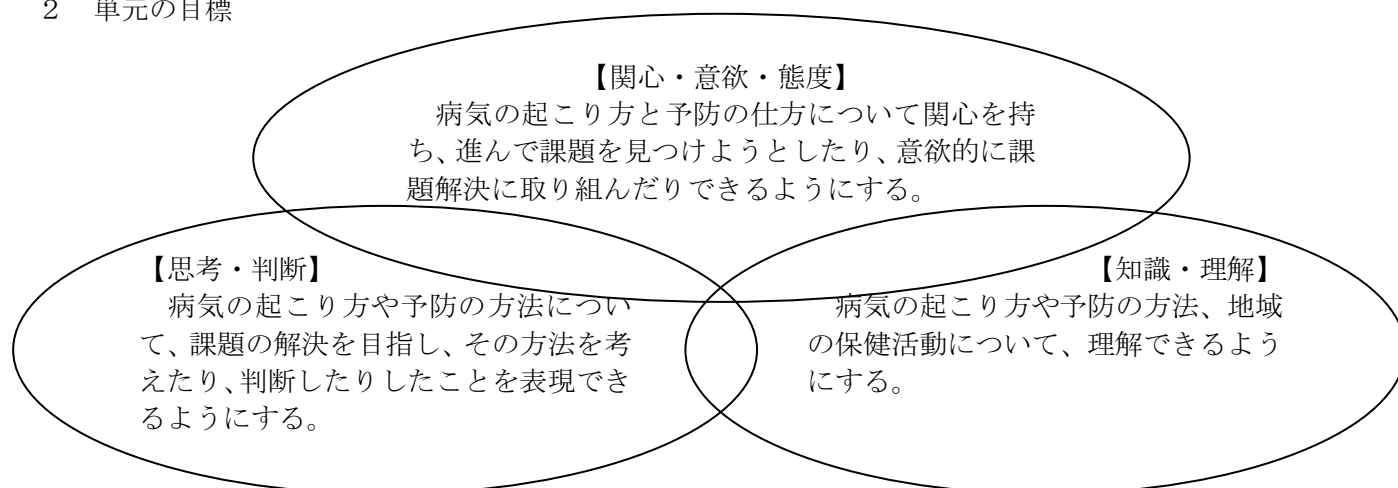
本年度は、中・四国小学校体育研究大会で、村田了一先生に実践発表をしていただくとともに、中・四国の体育冊子の実践発表、県小体研「あゆみ」の実践発表、県小体研ホームページの実践発表と多くの実践を発表する予定になっている。新学習指導要領移行期間の趣旨を踏まえて、各実践を積み重ねていきたい。また、新小学校学習指導要領の改訂の趣旨を研究するとともに、来年度以降の研究主題及び研究の方向性を研究していきたい。

第6学年 保健領域「病気の予防」実践を通して

指導者 大坪紘司

1 単元名 健康づくり大作戦（病気の予防）G 保健（3）

2 単元の目標



3 学びへの働きかけ（指導の意図）

《学習内容の明確化》

- 理解させたいキーワードを意識して学習展開を行い、児童のふり返りにはキーワードを使って学習したことや自分の考えについて表現できるようにする。
- 知識を深めるために押さえておく必要がある用語については、板書やワークシートに提示し説明する。
- ワークシートでは、学習した用語を使って振り返るようにし、自分のこれからの生活や生き方についての意識を持ち、自分なりの言葉で話せるようにする。

《単元構成の工夫》

- 事前アンケートや歯科検診の結果などを活用して、自分の生活習慣をふり振り返り見直していく意欲を高める。
- 単元としてまとまりを持って、生活習慣と病気との関連を意識できるような学習を進められるようにする。
- 知識の詰込みにならないように児童自身が病気の原因や予防について考え、発見したことを分類・整理したり、友だちの考えと比較したりするような学習過程を組んでいく。

《学び合いの充実》

- 実験、体験などの活動を通して、病気の原因と予防の仕方を結び付けて実践的に理解し、生活習慣を改善して健康な生活を送ろうとする意欲を高められるようにする。
- ケーススタディを取り入れて、ペアやグループでの話し合いを活性化させる。友達と自分の考えを比べたり、友達の考えを参考にしたりしながら、病気の予防の為にどんな生活習慣が望ましいのか考える。
- ふり返りをする事で自分のこれからの生活行動改善への意識を持ち、自分の考えを友だちと共有できるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標 むし歯や歯周病の予防には、口腔衛生を保ち、健康によい生活習慣を身につける必要があることを理解する。

(2) 準備 掲示物 ワークシート 電子黒板 酢酸につけた卵 ホワイトボード

(3) 展開

児童の活動	○主な発問 ・児童の反応	・留意点 ㊦評価
1 本時の課題を確かめる。(2分)	○まだ、原因や予防方法について話し合っていない生活習慣病はどれですか。 ・むし歯や歯周病です。 ・むし歯や歯周病は生活習慣病なんだ。なんで生活習慣病なんだろう？	・学習履歴を活用して、生活習慣によって予防できる病気についてふり返るとともに、むし歯も生活習慣病の一つであることを意識づける。
2 自分の歯の健康状態や歯の健康を保つために心がけていることをふり返る。(3分)	○歯科検診の結果を見て、今の自分の歯や口の中は健康なのかふり返ってみよう。 ・むし歯があるから、治療しないとイケないな。 ・むし歯がないから、これからもしっかりと歯磨きをしよう。 ・歯肉炎とあるけど、どういうことかな。	・歯科検診の結果をもとに今の自分の歯と口の状態をふり返り、むし歯や歯周病などに対する意識を高める。
めあて：どうすれば、むし歯や歯周病を予防できるのか考えよう。		
3 むし歯や歯周病何が原因で起こり、どのような症状が表れるのか調べる。(10分)	○むし歯や歯周病は、何が原因で起こるのか考えよう。 ・むし歯の原因は、甘いものじゃないかな。 ・むし歯の原因は、砂糖とミュータンス菌なんだ。 ・ミュータンス菌が酸を出すことで、歯が溶けるのか。 ・歯こうや歯石は歯周病の原因になるんだ。 ・むし歯を予防するには、砂糖をあまりとらなければいいのかもしれないな。 ・ミュータンス菌を口の中からなくすために歯みがきをするのかもしれない。	・むし歯の直接の原因になりそうなもの(飲み物、食べ物、ミュータンス菌など)のカードを提示し、予想させる。 ・ミュータンス菌の画像(動画)を見せ、口腔衛生を保つことの大切さを意識づける。 ・酢酸によって卵の殻が溶けた様子を見せ、歯も同じように酸によって溶けることを実感させる。 ・むし歯や歯周病の原因は、糖分やミュータンス菌、歯垢、酸であることをおさえる。
4 AさんとBさんの休日の食生活と口腔状態を比べて、むし歯になる原因と改善点を考える。	○AさんとBさんの休日の食生活を比べて、どちらがむし歯や歯周病になりやすいのか予想し、原因と改善点を考えよう。 ＜Aさんがむし歯になりやすい理由＞	・AさんとBさんは摂取する食品は同じであるが、摂取する時間帯が異なることを確認し、3の活動で得た知識と関連させてむし歯や

・一人で原因や改善点を考える（５分） ・班で原因や改善点を考える。（７分） ・全体で共有する。（８分）	・１日に何度もおやつを食べている。 ・酸にさらされる時間が長い。 ・おやつを食べた後にうがいや歯みがきをしていない。 <Ｂさんがむし歯になりにくい理由> ・おやつを食べる時間がＡさんに比べて短い。 ・おやつを食べた後にうがいをしている。 <むし歯にならないために> ・Ａさんはおやつを食べる回数を減らして、酸にさらされる時間を短くする。 ・Ａさんは、おやつの後に歯みがきかうがいをしてミュータンス菌を減らす。 ・ＡさんもＢさんも甘いものを食べすぎなので、甘いおやつを減らして他のものに変えた方がいい。	歯周病になる原因と予防策を考えさせたい。 ・全体の考えでＡさんの改善点だけしか考えていない場合は、Ｂさんの改善点についても考えさせる。 ・その他予防方法として、歯磨き粉を使った歯みがきやデンタルフロス、カルシウムの摂取などを伝える。 ・むし歯の予防方法をワークシートにまとめる。
５ 学習したことをもとにして、自分の生活習慣を見直し、どのように改善していくのか考える。（１０分）	<むし歯の予防方法> ・食事のあとは、ていねいに歯をみがく。 ・よくかんで食べる。 ・食べる時間は決める。→だらだら食べない。 ・糖分をとりすぎない。 ○学習したことをもとに、これからどのようにしてむし歯や歯周病を予防していけばいいのか考えよう。 ・糖分を取り過ぎると酸にさらされやすくなるので、甘いものを食べる回数を少し減らそう。 ・ミュータンス菌を減らすために、食後には必ず歯みがきをていねいにしよう。 ・ミュータンス菌が酸を出さないようにするために、だらだらと食べないようにしよう。 ・今でも十分に口の中のえいせいを保つ生活をしているから、これからも今の状態を続けよう。 ・むし歯になっていなくても歯医者に行って、歯の検査をしてもらおう。	㊦生活行動がかかわって起こる病気の予防について理解したことを言ったり、書いたりしている。 【知識・理解】(ワークシート・発表) ・学習したことをもとに、自分の生活を見直し、どのように口の中の清潔を保っていくのか考えさせ、発表させる。 ・学習した言葉を使って生活の改善点やむし歯の予防策などを書くようにさせる。 ㊦病気の予防について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見つけたりするなどして、それらを説明している。【思考・判断】(ワークシート・発表)

５ 成果と課題

- ケーススタディとして架空の２名の休日の食生活を比べることで、どのような食生活がむし歯になりやすいのか、原因についてホワイトボードを活用して、グループで活発に話し合うことができた。
- 自分自身の歯科検診の結果を導入に使ったり、学習した言葉を使って振り返りを書いたりするなど意欲的に学習に取り組み、知識の定着と自分自身の生活改善に結びつけることができた。
- 話し合いの時間の確保のため、むし歯や歯周病の予防については、教師主体になってしまった。
- 悪い食生活からむし歯の原因を考えることに終始したが、よい食生活の事例を通して、どのようにすればむし歯が予防できるのかを考えることも必要であった。